

自然を基調にした健康づくりの情報誌

トータルヘルス

Physical Mental Spiritual
Simple Economical Universal
Total Lifestyle Change

No. 98



治るも気から

巻頭言

「病は気から」は患者の9割にとつて真実だと言われ、「治るも気から」というのも、かなりの割合で真実のようだ。ある60代の男性は肺ガン4期となり、医師は手術を勧めたが、「好きなことをやってきたからいつ死んでも良い。残りの人生を治療に費やすのは嫌だ」と主張し、手術も抗ガン剤も一切やらずに、自宅で普段通りの生活を続けた。後日、再検査での彼のレントゲン像に主治医は目を疑った。「右肺下に大きな腫瘍があったのに消えていた。精神と身体は常に運動していると言うが、ガンを受け入れ割り切ったことが、免疫力を向上させたのかもしれない」と語ったという。今年66歳になる群馬の女性は、すい臓ガン末期と告げられ、苦しい検査が続いた。病院はもう嫌だと自宅に帰り、姉の指導で完全菜食の食事に変えた。別れた夫の元にいる娘のためにも自分は絶対に死ねないとも考えていたようだ。余命3か月の宣告から今年で3年経った。病気になる前よりも顔色が良いねと、ご近所の皆に感心されながら畑仕事に精を出している。

「手術も何もせずにガンが消えることなど有り得ない」と有識者は語るかもしれない。だが、このように自然に回復して元気に生きている元ガン患者は確かにそこかしこに居る。本誌今号に掲載したAさんは、十二指腸ガン末期だったが、チャコールを勧めた姉の言葉を絶対に信じ、飲み続けた。その結果、半年もしないうちに腫瘍はすべて消えた。チャコールの解毒作用も功を奏したであろうが、回復の速さを考えると、超楽家であった彼の性格も、快癒を助けたに違いない。

『病は気から』を科学する』の著者で英国の科学ジャーナリスト、ジョー・マーチャント氏は、脳内から分泌されるホルモンは、薬の効力に勝る程の十分な量が分泌される。だから前向きな精神は回復に非常に有効だと述べている。米国のバーニー・シーゲルという外科医は、彼の著書の中で、「多くの患者を診てきたが、余命宣告など鼻にもかけず蹴っ飛ばすくらいの患者は、かなりの割合で自然に回復している。医者の意見は参考程度として聞くくらいの、自立した精神の持ち主のほうが治癒力は強いようだ」と書いている。

「治るぞ、治るのだ」とのあなたの掛け声に体は呼应し、「癒せ、癒せ、生きるのだ」と回復の力が強く働く。病にある人々よ、うなだれるな、覚えよ、「治るも気から」の超力を。

参考文献・奇跡的治癒とは何か バーニー・シーゲル著 石井清子訳

Contents 目次

- 巻頭言：治るも気から 1
- アルツハイマー型認知症の予防と改善法 (2) 2~9
- 健康創りの土台一腸の浄化と解毒 (2) 10~13
- 体験：十二指腸ガン チャコールと楽天気質で快癒... 14~15

- 野菜はちから リンゴパワー 16~17
- クッキング：油を使わない簡単ドレッシング2種 18
- バックナンバーのご案内 19
- NKKだより：2017年NKKイベント 20